

令和3年度 学校評価について
～教職員自己評価・保護者評価の結果より、学校評議員のご意見等～

山形大学附属特別支援学校

1 学校評価全体として

(1) 教職員自己評価より (30名)

全35項目(1項目4点満点)の各項目の平均値は、2.7～3.2で、5項目(全体の約14%)で2.8以下(概ね1/4の教員が2以下と評価)となりました。昨年度と同様の各項目の平均値は、2.6～3.1、2.8以下の項目が7項目(全体の20%)と、今年度は若干、自己評価が高くなりました。

改善に向けての意見として、学部間の連携強化のほか、保護者や医療・福祉機関との情報交換等、さらなる連携を行いたいという意見が多く挙げられました。チームとして児童生徒の支援を考えていきたいという表れと捉えています。

(2) 保護者評価より (全55名中48名)

全12項目(1項目4点満点)の各項目の平均値は、小学部：3.1～3.8、中学部：2.8～3.6、高等部：3.1～3.5となっています。昨年度、評価が低かった以下の項目について、改善の兆しが見られました。

「自分から学習や活動に取り組む」【高等部】 $\textcircled{\text{昨}}2.9 \Rightarrow \textcircled{\text{今}}3.5$

「自分から仕事や手伝いをするように育てている」【高等部】 $\textcircled{\text{昨}}2.4 \Rightarrow \textcircled{\text{今}}3.1$

本校教育に対する満足度(4点満点)の平均値は小学部：3.7(昨年度：3.9)、中学部：3.6(昨年度：3.6)、高等部：3.4(昨年度：3.6)と全体的に昨年度よりきびしい評価をいただきました。コロナ禍の中、授業参観等の中止が余儀なくされ、保護者一人一人に本校教育についてご理解いただく場が少なかったものと捉えています。来年度に向けて、改善できるように邁進していきます。

2 各評価項目について

(1) 児童生徒や教員自身に関する評価(教職員・保護者共通の評価)

① 「めざす子ども像」について

昨年度と比較して、保護者の評価が学部によって分かれました(下表参照)。

番号	項目	教員	小学部保護者	中学部保護者	高等部保護者
2	児童生徒は、人とかかわりを受け入れたり、人とかかわろうとしたりしていますか。	3.2 (+0.3)	3.4 (-0.4)	3.3 (-0.1)	3.3 (+0.3)
3	児童生徒は、自分から仕事やお手伝いをするように育てていますか。	3.0 (+0.2)	3.1 (0)	2.8 (-0.1)	3.1 (+0.7)

高等部の保護者から、かかわりについて昨年度より高評価をいただきました。具体的な学校教育目標、めざす児童生徒像を基に、自主性や関係性にかかわる成長を保護者と教員が共有することができたようです。一方で、小学部、中学部の保護者からは昨年度よりも厳しい評価をいただきました。学校教育目標等の具現化に向けて、学校教育と家庭生活との関連についても触れながら、保護者との関係をより強化していきます。

②「めざす教師像」について

教員の学習状況等に関する情報提供の項目について、教員と保護者で評価が分かれま
した（下表参照）。

番号	項目	教員	小学部保護者	中学部保護者	高等部保護者
8	教員は、学習状況についての情報提供を十分に行いましたか。	2.9	3.7	3.4	3.5

学習状況等の情報提供については、授業参観等の中止もあり、教員としては不十分さを感じていますが、保護者からは教育懇談や日々の連絡ノートでの情報のやり取りについて、一定の評価が得られたようでした。しかし、分散型の授業参観や授業等のオンライン配信を望む声が多くありました。来年度はICT機器の活用も加味しながら、さらなる情報提供の場を構築していきます。

また、進路に関する情報提供の項目においては、保護者から対応が不十分であるという評価をいただきました（下表参照）。

番号	項目	教員	小学部保護者	中学部保護者	高等部保護者
9	教員は、卒業後の生活に向けての学習、情報提供を十分に行いましたか。	3.1 (+0.2)	3.1 (-0.5)	3.1 (-0.1)	3.2 (-0.2)

授業参観等の中止への対応（教育懇談、日々の連絡ノート等）については、上記記載のとおり、一定の評価は得られましたが、アンケートを基に実際の卒業後の生活を考え
ていく中で、将来を見通した学習がなされていたのか、実際どの程度成長しているのか
など、不安に感じるが多かったようです。来年度は、日々の授業が卒業後の生活に
つながることなどについて、キャリア教育の視点も含めながら情報発信を心掛けていき
ます。

③「めざす学校像」について

該当する3項目の平均値は、小学部：3.6～3.8、中学部：3.4～3.6、高等部：
3.2～3.5であり、全学部とも一定の評価を得ています。教員による自己評価の数値
が昨年よりも向上していることに対して、保護者は好印象を抱かれているようでした。
しかし、個に応じた指導支援を掲げる特別支援学校として、不十分と感じている保護
者・教員もおります。学校目標である「みずから学び、かかわり、はたらく人を育てる」
の実現に向けて来年度も邁進していきます。

④「教員自己評価に対する意見」「よりよい学校とするための改善策や意見」について（保護者：記述式）

保護者から、「分散型の授業参観日」「授業のオンライン配信」のほか「週日課の在り
方」や「子どもとの信頼関係の構築」など、多岐にわたる意見をいただきました。コロ
ナ禍の状況など、安全性を担保しながら、より開かれた学校を目指していきたいと思
います。

(2) 経営の重点（教員のみの評価）

経営の重点においては、下の5項目が特に不十分であると感じています。

番号	項目	4大変良い	3よい	2不十分	1かなり不十分	評価平均
1 (1)	カリキュラム・マネジメントを踏まえた教育課程の編成に努めましたか。	1 (3%)	23 (77%)	6 (20%)	0 (0%)	2.8
2 (1)	個別の指導計画等の活用と確実な引継ぎによる一人一人の実態に応じた適切な指導ができましたか。	1 (3%)	19 (63%)	10 (33%)	0 (0%)	2.7
2 (2)	もてる力を引き出し、社会的自立を目指したキャリア教育の推進ができましたか。	0 (3%)	20 (67%)	10 (33%)	0 (0%)	2.7
4 (3)	「交流及び共同学習」の充実、かわりや絆を広げる、深める活動の継続を行うことができましたか。	2 (7%)	21 (70%)	7 (23%)	0 (0%)	2.8
5 (2)	業務改善（意識改革と業務量削減）の推進と担任・分掌部業務のさらなる見直しを行うことができましたか。	2 (7%)	18 (60%)	10 (33%)	0 (0%)	2.7

不十分と感じた5項目について、令和4年度は以下のような改善案を考えています。

1 (1) 「カリキュラム・マネジメントを～」については、学校全体の活動と学部主体の活動が曖昧なところがありましたので、担当者が担当部分のカリキュラム・マネジメントをしっかりと実施できるように明確化に努めます。

2 (1) 「個別の指導計画等の活用～」については、教員間で他学部の授業を参観し、上位学部と引継ぎを行うなど、引継ぎの仕方の工夫を図っていきます。また、一般入学生（中・高）の学びの履歴の引継ぎが円滑に行われるように、該当校との連携強化を行います。

2 (2) 「もてる力を引き出し、～」については、キャリア教育についてキャリア教育全体計画を基に、全職員で共通理解を図り、小学部から高等部まで切れ目ないキャリア教育を目指します。また、高等部においては産業現場等における実習を実施しておりますが、中学部段階で同様の活動を実施することが有効なのかについて検討していきます。

3 (3) 「『交流及び共同学習』の～」については、附属学校園全体の課題とも言えます。特別支援学校として、インクルーシブ教育についての目的やねらい等を他校園にしっかりと伝え、邁進していきます。また、活動形態について、オンラインも含めながら効果的な活動を模索していきます。販売会（バザー）は、地域の方等に本校を理解していただくきっかけとなります。より効果的な販売時期、形態等について検討・実施していきます。

5 (2) 「業務改善の推進と～」については、現在の学部・学級や分掌部の具体的な業務内容を把握し、実施必要な業務なのか、削減できる業務はないのかについて再度検討していきます。附属学校のあり方について、全国的に見直されている中、新たな業務も生じています。そのうえで、今の業務分担で対応可能なのかについても検討していきます。

(3) 基本姿勢とマネジメント（教員のみの評価）

四附属学校園がより一体となるために令和6年度にコミュニティ・スクール化を目指しています。そのことも踏まえ、学校経営グランドデザインにおいても地域貢献について推進することが示されております。本校において、学区が3市2町（山形市・上山市・天童市・山辺町・中山町）と広範囲で、他の公立校よりも「地域とかがわる」という意識が希薄な面が見られました。附属校としての使命も含め、来年度は本校における地域貢献について検討の場を設けていきます（下表参照）。

番号	項目	4大変良い	3よい	2不十分	1かなり不十分	評価平均
8	今年度の学校経営グランドデザインが目指す地域貢献の内容を理解し、学校・学部・学級経営に努めましたか。	3 (10%)	22 (73%)	5 (17%)	0 (0%)	2.9

附属学校運営部から附属学校将来構想の一環として、令和2年度に附属4校園において、GIGAスクール構想、SDGsの推進を行っていく旨の方針が打ち出され、令和3年度も継続実施してきました。本年度の取組等は、次のとおりです。

① GIGAスクール構想等

昨年度は、小学部20台（定員18名）、中学部20台（定員18名）、高等部17台（定員24名）のタブレット型端末を導入いたしました。高等部につきましては、GIGAスクール構想の予算とは別予算からの購入（新型コロナウイルス感染症に関わる予算）のため、台数が少なかったのですが、今年度、教育振興会より4台のタブレット型端末を追加購入していただきました（合計21台）。昨年度導入された大型の電子黒板（65型）を令和3年度の新型コロナウイルス感染症に関わる予算より追加で導入する予定です（合計2台）。

授業での活用状況としては、今年度も全学部の生活単元学習、中学部・高等部の国語や数学などの教科別の指導で活用しています。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に配慮して、入学式の各種行事やふれあいタイム、児童生徒会総会など、全校での活動の際に校内でのオンラインを構築し、児童生徒の活動場所を分散しながらもリアルタイムで情報のやり取りができるようにしました。

② SDGsの取組

山形大学としてSDGsポータルサイトの開設に、実践等を掲載しております（合計5実践）。保護者に提示する単元題材一覧など、各種資料にSDGsの観点反映できるようにSDGsのアイコンを付加するようにしています（昨年度からの継続）。

3 学校評議員のご意見等（○：高評価 ▲：課題等 ■：感想等）

※ 学校評議員会開催予定日が新型コロナウイルス感染症に係るまん延防止措置期間のため、紙面にてご意見をいただくようにしました。

(1) 学校評価全体として

- 児童生徒に対して、大変よく指導していると思う。
- 保護者評価から、十分に対応しているのではないかと思う。
- ▲ 働き方改革については、これから業務改善が求められると思うので、さらに検討・改善できればと思う。
- ▲ 保護者からの評価のうち、情報提供にかかわる項目、笑顔あふれる元気な学校の項目の評価が低めになっていることが気になる。集合・対面でのやり取りが制限されていること、マスクの着用による影響もあるのかと考えると、早く新型コロナウイルス感染症の収束を願う。
- キャリア教育、進路指導の部分が気になる。
- 将来に向けての現場実習等の情報、対応などに不安さを感じる。

(2) 「児童生徒や教員自身に関する評価」について

- 学習状況についての情報提供について、教員が厳しめに評価するのは業務に真摯に取り組まれている表れと受け止める。より一層丁寧に、多様な手段を活用して情報提供を行うことを願う。
- ▲ 校門について、来校者自身が開け閉めできる状態であり、防犯上、課題を感じる。

(3) 「経営の重点」について

- 満足できるものではないかと思う。
- ▲ 個別の指導計画の活用が不十分なのか、引継ぎの方法に課題があるのか、その点について、精査する必要がある。
- ▲ 信頼関係に基づく連携と活動の充実について大丈夫だったのか。就労に関する情報は早めに提示するほか、詳細な情報を提示していく必要がある。

(4) 「基本姿勢とマネジメント」について

- 先駆的に他校のモデルとなって取り組んでいると思う。